

## DSD/JICA Project on Disability



Department of Social Development (DSD) / Japan International Cooperation Agency (JICA)  
Project for the Promotion of Empowerment of Persons with Disabilities and Disability Mainstreaming

### リンポポとフリーステートでアクセス改善活動を行いました！

プロジェクトは、現在、アクセス改善活動に力を入れています。リンポポ州で2018年10月に、フリーステート州では11月にアクセシビリティ・ワークショップを開催し、参加者たちが作成した活動計画に基づき活動を実施しています。



(写真) スロープの使いやすさをチェックする障害者

リンポポ州では、より多くの関係者にアクセスの重要性を知ってもらいたいという思いから、前述のワークショップ参加者たちが、プレゼンテーションやファシリテーションを全て取り仕切る形で2019年2月に2日間のアクセシビリティ・ワークショップを開催しました。保健省やタクシー協会の職員、障害者センターのマネージャーなど約30名が参加したワークショップで

は、障害者たちが中心となり南アフリカのアクセス基準の説明や、会場のアクセスチェックなどを行いました。ワークショップの2日目には、建設中の障害者センターでアクセス監査を実施し、バリアフリートイレが必要であること、スロープに手すりをつける必要があることなどの提言を行いました。アクセス監査に同席した障害者センターの出資者や建設業者などは、提言を踏まえバリアフリートイレを2ヶ所に設置すると約束してくれました。



(写真) 適切な傾斜にするためにスロープに必要な長さを説明する障害者

上岡廉専門家は、新しく設置される2つのバリアフリートイレの使いやすさを確認するため、同センターを1ヵ月後に再訪することを提案し、参加者や関係者たちは同意しました。今回のワークショップを通じ、より多くの関係者にアクセシビリティの重要性を理

解してもらうことができました。今後は、タクシー乗り場や病院、障害者センターなどでアクセス監査を実施していく予定です。

フリーステート州では、これまで公共事業省などと連携し、市役所や南アフリカ社会保障機関などでアクセス監査を実施してきました。2019年2月には、公共事業省からの依頼を受け、同省が建設を担当している2ヶ所のコミュニティ・ホールのアクセス監査を行いました。コミュニティ・ホールを訪問して障害者たちがまず驚いたのが、南アフリカのアクセシビリティ基準に基づいたバリアフリートイレが設置されていたことです。公共事業省の職員によると、昨年アクセシビリティワークショップに参加した後、建設中のコミュニティホールの建設業者にアクセシビリティ基準の情報を伝え、トイレやスロープなどを設置するよう指示していたとのことでした。しかし、基準に基づいているだけでは不十分だと考え、障害者にコミュニティホールを使用してもらい、改善点を指摘してほしいとのことでした。



(写真) コミュニティホールに設置されたバリアフリートイレ

アクセス監査に参加した障害者と行政官たちは、ホールのスロープ、トイレ、駐車場、看板などを1つ1つ確認

しました。その結果、スロープに手すりをつけること、車いす使用者用の駐車スペースを設置し、看板をつけることなどの提言をまとめました。また、ホールのステージの縁がホールの床と同じ色で弱視の人たちには境目が見えづらいため、ステージの縁に蛍光テープを貼ることも提言に含めました。



(写真) コミュニティホール玄関のスロープについて議論する参加者

アクセス監査を重ねるに従い、参加者たちは気付くポイントが増え、自信がついてきているようです。また、公共事業省が参加していることで、アクセス改善活動の成果が波及しています。引き続き、アクセス監査を行い、全ての人にとって住みやすい街づくりを進めていく予定です。

最新のプロジェクト進捗状況は、プロジェクト Facebook ページをご覧ください！

JICA SADEM :

<https://www.facebook.com/jicasouthafricadisabilityempowermentmainstreaming/>

編集:

鷺谷 大輔 [DaisukeS@dsd.gov.za](mailto:DaisukeS@dsd.gov.za)

上岡 廉 [RenK@dsd.gov.za](mailto:RenK@dsd.gov.za)